

## “ざわざわ感”を大切に

行ってみたいと思う魅力的な地域とは「地元の人たちが楽しそうに暮らしている場所」。地域の資源で一番大切なものは“人”。

地域の資源を徹底的に活かして、地域の中にチャレンジする場を生み出していきたい。“人”に注目して、“人”を育てていく。地域の中で新しい事を始めようとするにつぶされるのが常だったが、助け合うコミュニティの創出をした。

いろいろな人が、いろいろなコトをやろうとしている“ざわざわ感”がまちの中に出てきた。まちが変わってくる感覚を大切に。

**いちき・こういちろう**

**NPO法人atamista代表理事**

### ◆プロフィール

1979年に熱海へUターンしゼロから地域づくりに取り組み始める。2007年遊休農地の再生のため農家とともに「チーム里庭」を立上げ、新住民・別荘住民に向けた農業体験を提供開始。2009年には、地域資源を活用した体験交流ツアー「熱海温泉玉手箱(オンたま)」を熱海市観光協会・熱海市などと協働で開始、プロデュースを行う。2011年、熱海の中心市街地再生のための民間まちづくり会社、(株)machimoriを設立。

市来広一郎



## 最も大事なものは“人”

地域が動き出すためには、自分が主張するのではなく、まず相手にどうやったら自分を受け入れてくれるかを考える。何か変わりたければ、自分が変わっていった方が早い。そして、トライ&エラー(試行錯誤)を繰り返し、適応していく。

絶対にやってはいけないことがある。人集めを始めたならグループが崩れていく。軸を変えずに「当初の目的」に徹する。そうすればプレッシャーから解放されて、実は人が集まってくるという法則がある。

**いいくら・きよた**

**NPO法人サプライズ代表理事**

### ◆プロフィール

静岡市生まれ。21歳の時、アメリカワシントン州シアトルから帰国し起業。25歳で現在の伊豆市天城へ移住、ジェラート店をOPEN。地域のゴミ問題に疑問を抱き「ブログ」に書いたことをきっかけに共有意識の人間が賛同。現在までに静岡県東部を中心に17支部で清掃活動グループ「影奉仕」を立ち上げる。2008年静岡県観光商品ニューリズムプレゼンにて全県優勝。現在、明治大学社会イノベーションデザイン研究所の客員研究員も務める。

飯倉清太





# 大石 歩真

## サイコロのように いろいろな視点を持つ

特化せずに多角的な視点を持とう。情報と人をつなぎ合わせることで、一つの情報が多角的に広がっていく。人が集まってくる、人が行き交う場所を創り出したい。

街コンもその一つ。飲食店同士をつなげ、にぎわいを創出することで、若い人を呼び込む。さらに地域をつなげていく仕掛けを。

ふとしたことで愛する地域になる。人それぞれ、いろいろな郷土愛がある。楽しいまちに変えていけたらと願っている。

**おいしい・あるま**  
**NPO法人クロスメディアしまだ事務局長**

### ◆プロフィール

地域ポータルサイトeコミュニティしまだ運営者。ブログ等ITを通じた市民活動活性化活動を展開中。若者に島田を知って欲しいと！100対100の街コン「ヨルシマ」の企画運営を行う。7月には日本初の3市合同、はしご酒イベント「志太バル」を開催。島田市のパワーアップ事業から県中部広域エリアでの活性化事業など幅広い活動を展開している。

寸又峡温泉開湯50周年記念まちづくりフォーラム

## 若者が地域を変える

## Event Report



## 総括の会・2日目

### 若者を受け入れる“場”の創出

それぞれの地域課題を解決するために、若者が必要とされている。

- ①若者の事情を大人が把握してあげること。
- ②若者を受け入れるために2種類の場を提供。
- ③フラットなディスカッションでアイデアを共有。
- ④トライしやすくなるように高いハードルが低く見える仕掛けを。

若者を地域に受け入れるには「仕事場」「集まる場」この2種類の場をつくる。情報は“見える化”しなければダメ。受け入れる側が、ちゃんと何をして欲しいのかの「何」をはっきりさせること。

### 一番大事なものは間違いなく人

地域にどんな人がいて、どんなアプローチをするのかを考える。そして、若者が悩んでいるならばサポート役の大人が反対側から見てあげる。世話役の存在が重要になる。



①最後に参加者のリリーススピーチを。  
②総括の会は飯倉清太さんが講話を。